

棚田に吹く風

2021
冬
Winter

季刊



2 特集

棚田でCAMP

- 5 フォトエッセイ
豪雪地の棚田とこれを支えるもの
- 6 棚田・里山からのたより
大張沢尻棚田保全の取り組み
宮城県伊具郡丸森町 沢尻棚田
- 8 トロノキファーム奮闘記
棚田ネットワークから
地域おこし協力隊へ転身
- 9 棚田博士は今日も行く
突撃インタビュー
棚田博士に聞く
「思い出に残る出会い～棚田の研究を始めたころ～」(前編)
- 12 会員のひろば
- 14 棚田俳壇
スタッフのつぶやき
- 15 Project Report

棚田で CAMP

棚田は農業の場としては稲刈りを終えてしまえば、いわゆる農閑期というオフシーズンとなります。しかし農業だけでは維持が難しい棚田において、オフシーズンをなんとか活用できればとライトアップやイベントなどが各地で行われています。そして、今注目の取り組みが棚田でのキャンプ体験。「満天の星空と棚田で目覚める朝」という特別な時間を味わえる、とキャンプ好きにも大好評だそう。今号は4地域の最新事例を紹介します。



稲倉の棚田

長野県上田市

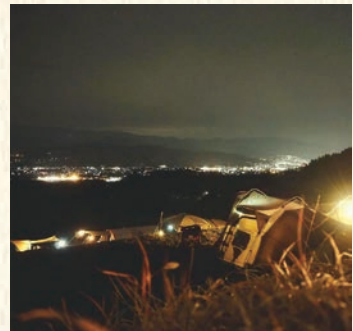
- 開催時期：2017年春秋に試験開催、2018年から毎年、稲刈り後→田起こし前の、田んぼ作業がない季節の週末に随時開催。別に通年キャンプ可能な場所あり。※2020年はコロナ禍で2021年春開催へ延期(3月から追加募集予定)
- 設備：トイレ、水道は隣接
- 参加費等：ソロ区画3500円(棚田米1合、ソーセージ等含)～プランによる ※キャンプ用品等の有料貸出あり
- 問い合わせ：<https://www.tanada-camp.com>

棚田でキャンプしながら里山を堪能する。満天の星空の下で田んぼの中にテントを張り、棚田を体感することで、保全活動の一環に繋げていくことができれば。そんな企画が棚田の新たな可能性を示すイベントとして、注目されるようになってきました。その先頭を走っているのが稲倉の棚田です。キャンプを企画するグループ「棚田フューチャーズ」が生まれ、後援や協賛を取り付け、当初よりキャンプ道具の貸し出しにも対応しています。

2020年は企画を立ち上げて4年目。今年こそと意気込んでいたのに、コロナのせいでイベントは延期に。現在は小規模ながら貸切キャンプを実施していて、コロナ禍の中で人気です。

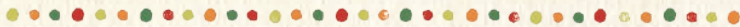
稲倉でキャンプする魅力は、昼間は美ヶ原高原などの遠景が、夜は上田市街の夜景が見えること。もちろん星空もちょうど見えますよ。都内から2時間半、高速のインターから5キロとアクセスは抜群。来春のキャンプこそ、何とか開催にこぎつきたいと、準備を整えて待機中です。

(談：棚田フューチャーズ代表・玉崎修平さん)





坂折棚田 岐阜県恵那市



- 開催時期：2018年秋から、田んぼ作業がない季節の週末にイベントとして随時開催
- 設備：トイレ、水道は隣接
- 参加費等：1テント4000円(2名参加費含む) + 1名毎に1000円(状況により相談) ※キャンプ用品等の貸し出しはありません。各自ご持参ください。
- 問い合わせ：柘植康博 (090-8321-4848)

お米作りも終わり、次の春を待つ田んぼ。400年以上の歴史のあるこの坂折棚田で、稲作だけではない新しい魅力を発見したい。冬の間、棚田でいろいろ遊んでみたい。2年前から始まった「棚田でキャンプ!」。自然いっぱい絶景の棚田で、テントを張ってキャンプしませんか。そんな呼びかけをしています。展望広場のすぐ下の田んぼが会場なので、綺麗なトイレと水道は完備しています。テントやキャンプ用品は持参いただけますが、棚田米、薪や炭の販売もあります。

坂折棚田では冬場の田んぼライトアップを実施中。夕方には畔に並べられたLEDライト1000個が灯り、幻想的なイルミネーションが楽しめます。深夜は満天の星空が見え、運が良ければ流れ星も見られます。そして、正面の笠置山からの日の出は最高! 名古屋市内からだと1時間ちょっとで行けるという、アクセスの良さも自慢です。

このキャンプに参加した人が坂折棚田を好きになり、次は棚田オーナーになった、という方も増えてきています

2020年秋。コロナ禍ではありますが、いろいろ用心しながら随時開催中。年越しキャンプも予定しています! 田起こし前の3月ごろまで続ける予定です。(談:棚田キャンプ責任者・柘植康博さん [NPO法人恵那市坂折棚田保存会理事])





竹棚田

福岡県東峰村



- 開催時期：2019年秋に棚田ライトアップイベントに合わせて初開催。
2020年秋が2度目
- 設備：トイレ・水道はすぐ近くの里山カフェの設備を利用
- 参加費等：1区画5000円（棚田米1kg、トーチ1本含） 全10区画
※キャンプ用品等の有料貸出あり
- 問い合わせ：岩屋キャンプ場管理棟すてら（0946-23-8423）

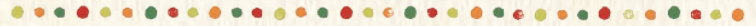
東峰村は福岡県中央部の東端に位置し大分県日田市と隣接。人口は約2000人、高齢化率は43.3%と県下一高齢化の進む地域です。中でも、竹棚田を有する竹地区は村内でも特に高齢化率の高い地区。棚田の原風景を維持するにも想いだけでは及ばなくなってきました。そこで始まったのが竹棚田景観保全プロジェクト。地区内でキャンプ場と古民家宿泊施設、カフェを運営し、売上の一部を棚田の景観保全につなげるというものです。棚田でCAMPはそういった取り組みの一環として企画しました。同時開催で、棚田の石積みに光を灯すライトアップイベントも開催。夜は幻想的な棚田の風景を、朝は暮らしと共に脈々と引き継がれてきた里山風景を楽しんでいただけるでしょう。利用していただいたお客様からは「農家さん方の努力や暮らしぶりを感ずることができた」という言葉もいただくことができ大変嬉しく思っています。

今後は、棚田と施設とイベントと、すべて存続していけるような新しい体制づくりを進めると同時に、ふるさとのように愛着を持ってくれるファンが増えてくれることを願います。
(地域おこし協力隊・江島里美)



高山棚田

大阪府豊能町



- 開催時期：2019年10月13日～14日、右近フェスタに合わせて初開催
※2020年春秋の企画はコロナ禍で中止
- 設備：炊事場なし、トイレは徒歩5分程度
- 参加費等：ソロキャンプ3000円(棚田米、ソーセージ、薪含)～人数プラン
による ※キャンプ用品等の有料貸出あり
- 問い合わせ：<https://www.ukonagripark.com/>

戦国時代のキリシタン大名として有名な高山右近。そんなゆかりある地の高山棚田は近年、耕作放棄地化が進みつつあります。そんな使用されていない棚田を活用して、子ども連れの家族が自然と触れ合える農業を介した空間を作りたい。それが私たち「右近アグリパーク」の夢です。昨年秋に、高山右近フェスタに合わせて耕作放棄地を整備し棚田キャンプを初実施、14組総勢40名のキャンパーが参加しました。炊事場がなくトイレも少し離れていますが、大自然に囲まれた絶景の高山棚田でブッシュクラフトを楽しむスタイルですので、その日初めてのキャンプの方々含めかなり楽しんでいただけました。そして満天の星空の下、参加者みんなで2000本のろうそくに着火する棚田キャンドルナイトは最高でした。

2020年も春と秋に実施予定でしたが、残念ながらコロナのせいで断念。来年はぜひ復活させたいと思っています。

右近アグリパークは、キャンプだけでなく体験イベントを主催したり地域のマーケットに参加し地元産品を販売するなど、積極的に活動しています。ぜひ一度、HPを訪れてみてください。

(談：右近アグリパーク事務局・中根康有さん)



豪雪地の棚田と これを支えるもの



写真・文
宮澤 幸雄



「雪の縁取り」初冬の星峠の棚田

今号では夏号で紹介した豪雪地新潟県十日町市松代地区でも特に人気のある「星峠の棚田」を再度取り上げます。星峠はほぼ全域が東側に開けており、峠の名前にふさわしく高台から俯瞰するかのような景観と一年を通して棚田越しに日の出シーンが見られる絶好のロケーションです。峠集落を過ぎた先に整備された展望台付近からは大小200余りの棚田が眼下に広がり優美な景観を堪能できます。さらにここから約1km先の鍋立山入口付近からはシンボルの大きな棚田と雲海や林からの光芒のコラボを捉えるために多くのカメラマンが集います。

棚田は収穫後の秋口や春先の田植え前になると耕作の為に天水を溜めてわざわざ水鏡状に均します。このように耕作者は一年中手間暇を掛けて棚田を守っているのです。

ところが近年、この水鏡の棚田の畦に立ち入ったり、棚田の中に三脚を立てて棚田を荒らす心無い者がいるようです。さらに棚田で作業中の耕作者に「撮影の邪魔だからどいてくれ」などとまくし立てる輩もいるそうです。地元では、「観光客の為に駐車場やトイレさらには展望台も整備してきたが、マナー違反のカメラマンがいて迷惑している」という耕作者の嘆きを耳にします。耕作者には感謝こそすれ、これでは迷惑千万「本末転倒」と言わざるを得ません。くれぐれも耕作者の迷惑にならぬようマナーを守って楽しく撮影したいものです。

今回のメイン写真は、初雪が棚田の畦を縁取りした日の出前の凜とした星峠の景観を捉えたものです。はるか彼方に八海山、越後駒ヶ岳、中ノ岳の越後三山を遠望できます。



宮澤 幸雄
みやざわ ゆきお

1955年新潟県十日町市に生まれる。新潟県警察官として在職中の1994年、風景写真家宮下正巳氏(新潟県妙高市在住)に出会い心酔し、指導を受けながら風景写真撮影を開始する。専ら旧東頸城郡(現十日町市)のいわゆる豪雪地帯のブナ林を対象に撮影をしていたが、当地の棚田に展開する四季の風景に魅了され傾倒。退職と撮影20年を機に写真集『ブナと棚田の物語』(風景写真出版刊)を上梓。これまで同名の写真展を住居地の上越市内にて3回開催。

「兎の足跡」

厳冬期の日の出前、気温-13℃にもかかわらず、未明に降った新雪の上を何かを求めて駆けめぐる野兔



棚田・里山
からの
たより



東北の石積み棚田を耕し続ける

大張沢尻棚田保全の取り組み

宮城県伊具郡丸森町 沢尻棚田

沢尻棚田について

宮城県の最南端に位置する丸森町。北部を東北第2位の長さを誇る阿武隈川が貫流し、流域の肥沃な土壌を活かした農業が盛んな地域です。その町の中心部から、阿武隈川沿いの国道349号線を8kmほど進み、山側に上った先には、沢尻棚田の眺望が広がります。

大張の沢尻地区は、標高420mの山頂から流れる沢尻川沿いに開墾された地域で、棚田の面積は4.1haです。その歴史は、江戸時代から昭和30年頃にかけて、地区の人々が僅少な田・荒地地を、鍬・もっこ・馬等を使い、人畜一体となって石垣を積み、今の姿に整備したというものです。「日本の棚田百選」の中では、最北とされる石積みの田は、開墾に際して掘り出された大きさがまちまちの石が積み上げられ、田んぼの一枚一枚が大きいという特徴があります。また、石積みの高さは

多くが2〜3m、高いところでは5mくらい、それ以外は土坡の棚田になっっています。

現在は「大張沢尻棚田集落協定」として4軒の農家が管理・耕作しており、天水・湧水を利用し、畜産農家との連携により稲わらと堆肥の交換などによる有機農業を推進しています。

地域の自然環境については、県と町から減農薬・減化学肥料の認証を受けて、環境・美観に配慮した耕作を心掛けている効果もあり、棚田の周辺には昔からの生態系が残っています。夏には沢山の蛍が夜空を舞い、収穫時期には黄金色の稲穂と彼岸花の朱のコントラストが鮮やかで、絶好の写真撮影のスポットとなります。

台風被害を乗り越えて

2019年10月に発生した令和元年東日本台風は、丸森町全域に甚大な被害をもたらしました。平野部



写真コンテストより1:「棚田に華を添えて」(撮影:渡辺浩二) / 2:「田植え始動」(撮影:丹野寛志)
3:「一服」(撮影:松本正紀) / 4:「稲刈り風景」(撮影:安達一郎)

では多くの水田が冠水し、山間部では山崩れなどにより、水田に大量の土砂が流入した場所もありました。

大張地区においても、総雨量は481mmとなり、当時、沢尻棚田で作付けしていた全筆に亘り大小の被害を受けました。また、棚田へ通じる主要道路にも落石が発生し、発災後から1年を経過した現在でも道路の一部が塞がれた状況です。

このように、当時は翌年の作付けも危ぶまれる状況でしたが、行政による復旧工事を待たずに、集落協定での復旧作業を思い立ちました。幸いなことに、集落協定では運搬車やバックホー等の重機を取り扱わず、レータ―がいたので、重機をリースで確保し、協定構成員の3名で復旧作業を行いました。10日以上を費やし、農地を復旧できたことで、翌年も無事作付けを行い、収穫まで漕ぎ付けることができました。困難な状況にあっても、棚田を守り、この先も受け継いでいきたいという強い思いを改めて感じた出来事でした。

今後の課題

棚田のこれからを考えると、今が重要な節目なのかなと感じています。これまでも耕作放棄等の困難な状況に直面したことはありませんが、どうにか乗り越えてきました。

しかし、現在の棚田を取り巻く状況を考えますと、管理・耕作を行う地域の人々の高齢化や、イノシシ等野生動物の急激な増加とそれに伴う農作物の被害、それに加えて、台風被害からの完全な復旧や新型コロナウイルスの感染拡大による来町者の減少など、難しい課題が山積しています。

一方で、明るい兆しもあります。2020年は地元の県立伊具高等学校

校の農学系学科の3年生による体験実習の申し入れを受け、延べ4回に亘り実習を行いました。草刈りやイノシシ対策による電柵の設置、秋の収穫期のコンバイン体験実習などを通して、棚田の存在とその魅力を知り、今後の課題について考えさせられたという感想も寄せられました。

また、町や県の協力のもと、沢尻棚田をテーマとした写真コンテストを行いました。応募総数は169点にも及び、棚田に対する関心の高さに驚いています。

特に、観光素材としての棚田を考えると、棚田を訪れて写真を撮影するコンテストのようなイベントは、基本的に屋外での活動であり密になることもなく、コロナ禍においても



上：体験実習の説明／下：電柵の設置

棚田へのアクセス

【公共交通】 阿武隈急行線丸森駅下車、駅前よりタクシー利用で約10分

【自動車】 高速道路から丸森駅を目指し、ここから阿武隈川沿いに国道349号を西へ6.5km。棚田入り口の看板があるので右折し約1.5km北上

お問い合わせ

丸森町役場 農林課 tel : 0224-72-3026



国道のトンネル手前に棚田入り口の看板あり
右折し約1.5 km。付近に目標物は無い。



2019年の台風による崩落箇所

有効な情報発信手段だと思えます。このように、棚田を取り巻く状況は様々ですが、これからも棚田に関心を持ってもらえる方法を模索し、美しい沢尻棚田を守り、次の世代に引き継いでいきたいと思えます。

(大張沢尻棚田集落協定代表 大槻光一)

トロノキファーム奮闘記



小山友誉

トロノキファームとして初めての稲刈りをしました。

条件が良い場所も慎重な作業、フォローのためのバインダーが待機



田んぼの水は、雨水と湧き水頼み、田植後の天気と前の冬の降雪量が大きく影響しています。この夏を一言で表すと、長雨↓フーン↓長雨です。田んぼは中途半端な柔らかさでコンバインもバインダーも手に負えない厳しい状況でした。機械は何度も故障し、暗くなるまで作業をすれば、車を田んぼに落としかけて身動きができなくなったり、その車を助けるようにした車も別の水路にはまったり、倒伏した田にカモシカやインシシが入って遊び、穂を踏み込んでしまつて、機械はおろか手でも刈ることをあきらめる状態になったり。

その田は、積極的放置という方法を選びましたが、景観の悪さに耐えきれず11月末に稲刈りをしました。稲作を始めた年に、棚田の稲作においてのほとんどのトラブルを経験できるといふ最高の年になりました。

どんな年もあると思いますが、機械や人の脚を掴んで離さない絶妙な硬さのペド（土の方言）で育ったお米の美味しさは、人の心も掴んで離さない絶妙な美味しさで、そのご飯を食べながら真っ白な冬を越す頃には、今年の苦勞の記憶も真っ白にリセットされ、やる気に満ちた春を迎えます。



動物たちに踏み込まれてしまった田の最後の稲刈り

Toronoki Farm Story

棚田ネットワークから地域おこし協力隊へ転身

長野県上田市地域おこし協力隊

玉崎修平

上田は街と山の距離がいい。威風堂々とした有名な山もあるが、それらは遠くに望むのがいい。

里山に囲まれる上田は、ちょっとキノコを取りに行く日常に溶け込んだ山との暮らし、心地よさ。

例えばテレ東のニュース特集だったか？ 棚田オーナー制度が取り上げられていた。ネット検索した当時、home更新を一生懸命していた「稲倉の棚田」にヒット。12年前に棚田オーナーとなって自転車で訪れたのがお付き合いの始まりだ。

その後、都内でも何か活動できないかとNPO法人棚田ネットワークに顔を出すようになり、棚田や里山での保全活動を学ぶ機会となった。これまでと毛色の異なる人と出逢い、考え方に触れたことが、生き方を決める要因となったのは確かだ。

2017年から稲倉の棚田で主催する「棚田CAMP」の運営理念は、観光優等生（営農劣等生なのに）となり得る棚田の現状を無理なくビジネスに繋げていきたいと考えた訳で、これは間違いなく12年間の蓄積なくしては辿り着いてない。

地域おこし協力隊員になったのは、長年気に掛けていた彼女と一緒に、ともに人生を歩みたくなった。それに尽きる。

10月に就任してから早2ヶ月。地元のお爺様や主婦とも心打ち解けて幸せな日々である。

3年間の任期、あとは上田と結婚するだけかな。（プライベートでも）



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の 全国棚田行脚

突撃インタビュー
棚田博士に聞く

「思い出に残る出会い」棚田の研究を始めたころ」(前編)



本誌の連載記事「棚田博士は今日も行く」は稀に見る長寿紀行文です。紀行文というよりは棚田の調査訪問記と言った方が適切かも知れません。棚田の情景とともに記事の核心には、つねに棚田地域の守り人が登場します。「棚田博士」こと中島峰広氏による連載は2007年に始まり今年で64回目を迎えました。棚田界では他に例を見ない長期連載となっています。

ところが、今年は事情が一変。新型コロナウイルス禍により棚田訪問も自粛を余儀なくされ、ついには取材不足で連載も中断に追い込まれてしまいました。

この中断期間を利用し連載執筆者である中島峰広氏に突撃インタビューを試みました。早期のコロナ終息と「棚田博士は…」の連載再

開を願うばかりですが、その空白を埋めるべくインタビューをもとに思い出に残る人物をはじめ多彩な角度から秘話を2回にわたりお届けします。

今号では、「棚田の研究を始めたころ」をテーマに三重県熊野市の丸山千枚田にまつわる秘話を紹介します。インタビューアは三重県・丸山千枚田で生まれ育ち、現在は東京在住の水野晴美さんです。(編集部)

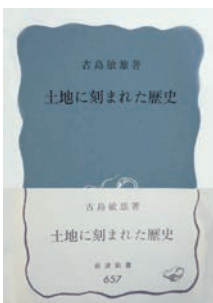
棚田の研究に関わるようになってきたきっかけは何でしょうか？

私が早稲田大学に入学したのは昭和28年(1953年)。恩師である竹内常行教授は東大を卒業される金沢大学を経て早稲田に来られた。後に先生は「僕は中島君と同級生だからなく」とよく仰っていた。

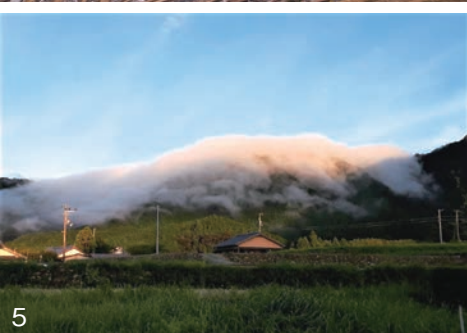


なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部歴史科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



私が早稲田大学のスタッフになった頃、東大教授の古島敏雄氏が『土地に刻まれた歴史』という本を岩波新書から出版されて、「文献が残っていない時代の歴史は、土地を観察し推測することにより探り当てることができる」というもの。棚田の水についても触れていて「古来、田んぼは豪族や行政が取り仕切り開発したわけではなく、一般の農



1:昭和中頃の田植え風景(丸山千枚田)／2:昭和中頃と推測される丸山千枚田／3:春先の丸山千枚田／4:冬場の丸山千枚田／5:風伝おろし

民が個々に開墾した為、大掛かりな水路などの工事を行う技術資力は持ち合わせていなかっただろうから、雨のみで耕作する天水田だっただろう」と論理的な理屈を述べておられてね。それを読んだ水田灌溉の研究をされていた竹内教授が「自分は今まで沢山の田んぼを訪ねてきたが水路のない地域は見たことがない。文部省から科学研究費をもらい、そのことについて研究をしてみようではないか」との提案があり取り組むことにしたんだ。

昭和40年代中頃、先ず三重県紀和町(当時)、奈良県生駒市、故郷近くの宮崎県諸塚村の3か所の棚田を研究対象とし訪ねたんだよ。結論から言つと3か所の棚田とも取水の方法は異なるが水路は既にあったね。

初めて訪れた丸山千枚田の印象はいかがでしたか

先ず規模が大きいといわれている丸山千枚田を訪ねたが、遠かった。東京から乗った東海道線の「瀬戸」は名古屋で前方車両は紀伊半島を南下して那智勝浦まで、後方車両は高松までと分かれて走る特別寝台列車だった。当時、丸山千枚田がある紀和町へは和歌山県の新宮からバスが出ており海岸沿いに阿田和まで戻り、そこから山間部に入っていくルートだった。

丸山千枚田の手前に高い峠があつてね、今でこそトンネルがあるが、当時は細い林道の急な坂道だったので、峠の茶屋でバスの運転手のために休憩時間があつたんだ。鉱山の鉱石や、林業も盛んだったから木材を山積みしたトラックの通行も多くて、細い道をすれ違つ時など、乗客を乗せたバスの運転は神経を使つただろうと思う。その休憩時間に風伝餅というあんころ餅を食べたよ。餅のほかにバナナなどの果物が売られていた。この峠の名前は「風伝峠」。なんとも良い響きの名前だね。風が伝わる峠だよ。地理学研究者としてとても興味深かった。また、この峠には運が良ければ「風伝おろし」が現れるんだよ。棚田に雲海をもたらした霧があふれ、峠を越え東隣の尾呂志集落にゆつくり流

れ落ちるんだ。尾呂志側から見るとの光景はとても素晴らしく、白い霧に乗った神々が、夜明けと共にゆつくり山を下るようにも見えるんだ。当時は板屋集落にも宿があつてね、役場職員の福岡さんに紀和町の数か所の棚田を案内してもらい、お寺の住職とも会談したことがあるんだよ。

丸山千枚田を一望した時“おー”と言葉が漏れ、息を呑んだよ。今も全国屈指の規模ではあるけれど当時の風景は本当に凄かった。この棚田は湧水が出る山の中腹より上段側に民家があり、民家から下の川の方まで田んぼが流れ落ちるように続いている。勾配が急な箇所も多く足場の良い畦は自然と曲

がりくねった細い道を形作り、棚田のあちこちでつながっている。この細い道を大きな稲束を背負^{しょおこ}いで登る光景を目にしたり、腰の曲がったお年寄りに出会う度に「これは何と大変な重労働だろう」と胸が詰まり、何とか暮らしの向上を手助けしたいと思っただけ。

今では棚田の縦横に農道が整備され農耕車ばかりでなく、観光客も車で自由に往来できる。名古屋方面からの高速道路も整備されつつあるし、夜行バスも利用できるなど以前よりは近くなったよね。この棚田も昔は陽の当たらない存在だったが、平成の保存会結成を期に展望が開け「今まで下を向いて生きてきたが、やっと上を向いて生活できるようになったよ」というお年寄りの話が印象に残るね。

丸山千枚田で印象に残る人を挙げてください

なんとと言っても北富士夫さんですね。北さんとは紀和町で行われた1999年の棚田サミットの時から付き合いかな。丸山千枚田は私

が初めて訪れた棚田で、全盛期をこの目で見ていたからね。今もすごいと思うけれど、あの頃は棚田の真ん中を貫く道路もなかったから素晴らしい景観だった。

北さんとは年も近いこともあり話が合ったんだよ。NHKのドキュメンタリー番組「未来派宣言」に出るときも相談に乗ったりしたんだよ。昭和初期2000枚を超えたといわれる丸山千枚田も昭和50年代には荒廃が一気に進んでね、平成元年（1989年）には530枚ほどしか残っていなかったんだよ。これ



丸山千枚田の守り人 北富士夫さん

は何とかせにやいかんと平成5年（1993年）には保存会が結成され復田、オーナー制の導入、展望台の設置などに取り組んだ。その後4年間で約800枚も復田したというからすごいことだよ。その中心になったのが初代保存会会長の北さんであり、丸山千枚田を語るとき真っ先に顔が浮かんでくるよ。また北さんは写真好きでね、雲海の棚田や夜景の棚田をカメラにおさめ写真展に出展したり雑誌に投稿したりと棚田を宣伝していたよ。

（次頁に続く）

丸山千枚田へのアクセス



【公共交通】熊野市駅前より三重交通バスの湍流荘行きに乗り、「千枚田・通り峠」下車徒歩20分。運行本数は1日4本程度と少ない

【自動車】国道42号線から国道311号線に入り、風伝トンネルの出口を右折、県道40号を約3km進むと道路沿いに展望台がある



丸山千枚田空撮

棚田から 新たなスタート



大阪府大阪市 山村 哲史

遠きにありて思うもの——。20年ほど続いた私と棚田とのこんな距離感が2020年、がらりとかわりました。勤めていた職場を4月にやめ、農学部で大学院で学びながら、移住を視野に入れて京都府北部の「毛原の棚田」に通っています。距離感は確実に近づいているという実感があります。

棚田との縁は、大学生のころ「毛原の棚田」（京都府福知山市大江町）を訪ねたことがきっかけでした。ちょうど集落を挙げた「棚田農業体験ツアー」を始めたところ。「新しいことをやろう!」という活気にあふれ、地元のみなさんは家族のように迎え入れてくれました。この年は長野県での第3回全国棚田サミットや、奈良県明日香村の「稲淵の棚田」にもおじゃましました。

棚田をテーマに卒業論文を書いた後、新聞記者になりました。棚田百選が選定されたときは、取材で熊本での「菅迫田」にうかがいました。熊本では水俣の棚田で草取りもさせてもらい、鳥取ではたんぼを守る大学生グループ「三徳レンジャー」に出会いました。愛媛では「櫻谷の棚田」のオーナー制度が始まる機会に立ち会うことができました。東京では農業政策の取材を担当し、棚田地域振興法の成立前夜を垣間見ました。

全国を転々とする間も、毎年毛原を訪ねるとあたたかく迎えてもらいました。いまでは妻と二人の娘たちにとっても大切な場所になっています。ただ、普段の生活と棚田の距離はなかなか縮まりませんでした。今回の轉身には家族の事情もあるのですが、ようやく棚田に近づけたという思いは強いです。

全国では本当に多彩な保全活動が広がっています。そのなかにあつて私は、棚田とともにある「暮らし」が将来も続くことがとても大事だと感じています。毛原で20年以上続く棚田オーナー制度を、中島峰広先生は来訪が頻繁な「就農・交流型」と分類されました。こうした取り組みもあり、13世帯の集落で3組のUターン、1組のUターン移住のご家族が暮らしを続けていくためのヒントがたくさんあります。それを探しながら、私も輪に加わっていきたくです。

コロナ禍では暮らし方を大きく見直そうという動きが広がり、結果として大きな意味がある年の新たなスタートとなりました。その先にどんな未来があるのか。ぜひ、棚田に集うみなさんと探っていければと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。

会員のひろば



会員の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!ご要望、感想やご質問でもOK!(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真7添え) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています。↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



新潟県十日町市 新田の棚田

東京都 神田茂実

久しぶりに「新田の棚田」を訪ねてみました。20年ほど前、ここは棚田ネットワークの体験田で昼は棚田作業、夜は語り合う場でもありました。この風景を見ると老若男女皆で楽しくやっていた光景がよみがえりました。

棚田に想う



会員さんから寄せられた棚田の雑記。「棚田に想うこと」を語ってまいります。

東京都新宿区 関根新治

佐世保・国見峠から有田に向かう山中の岳の棚田を見て「日本の風景は美しい！」と改めて感動し、この美しい風景を維持することができるならと会員になることを決めました。

いざ、会員になると色々な人の棚田に対する想いに気がつきました。長崎のラーメン屋のライスがおいしくて、話してみたら日向の棚田米を使っているとのこと。もうすぐ新米が出るとのこと。「また来ます！」といって店を後にしました。また、会報誌で新潟・お福酒造「山古志」が紹介されていました。また、お福酒造は大学の先輩のご実家です。棚田米は知らなかったので早速注文してみました。これがきっかけで、電話で20年ぶりぐらいに先輩と話すことができ、棚田維持についての活動を伺いました。

少し意識するだけで、色々な人が棚田について考え、行動していることを知ることができました。私自身が棚田に対して何ができるかはわかりませんが、まずは棚田について人と語り、棚田に対する想いを交換することからできたらなと思います。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



いただきます
みそをつくることもたち

©2018 「いただきます」 製作委員会
プロデューサー：安武信吾
監督：オオタヴィン
まほろばスタジオ
<https://www.mahoroba-mirai.com/>

しあわせは食卓のなかにある。そこには、懐かしい日本の子育てがありました。素足で駆け回り、竹馬で遊ぶ。真冬でも薄着と素足で風邪もひかない。自分たちのみそを毎月100kgずつ仕込む。給食は玄米、みそ汁、旬の惣菜。和食が苦手だと思われる現代っ子ですが、ここでは毎日完食です。笑って、泣いて、ほっこり癒される子育てドキュメンタリー。全国の劇場公開や自主上映会で総観客数は既に2万人超え。アフターコロナの免疫力キープにぴったりの映画です。



進士五十八の風景美学

著者：進士五十八
700円(+税)
出版社：マルモ出版
2019年

著者は福井県立大学長、元・東京農科大学長、曹洞宗大本山永平寺の機関紙『笠松』への寄稿「園林家十話」をまとめたもの。中国語で「園林」は造園のこと、造園家から見た美しい風景の地域創造のための十の基本的視点書かれている。棚田ファンには第八章の「食農と環境」がおすすめ。禅は精進料理をはじめ食の重要性を説いていることから、その基となる「農」に感謝しなければならぬ。棚田について語るとき、農業という生業だけでなく、文化、風景、生態といったものすべて「農」について考えなければならぬ。

第37回

棚田俳壇

令和3年

誌上添削

誌上添削は
誌面都合で
お休みです
次回募集は
2月末日です

山の田に祈りを込めて桜木を
時雨あり草をびくのみ学校田
紅葉に人影まばら里の山
鳴き交わす声響きたり落穂田に

新潟市 田入絵人



福は止まず枯れ野飛ぶ鳥目で追いつ
年明けも晴れぬ心に年重ね
白鳥を見しと童等手を伸ばし
仕事終え気持ち静まり冬の月

豊島区 小川順子

鯛・鱒・鯨も泳ぐ秋の雲
雀蜂死骸も見事野武士振り
蜻蛉の見合う間合いの秋日和
車止め稲刈り農夫に注文す
枯葉山犬猫嬉しく転げ合い
一年の長き草薙もりコロナ鍋
人生の9回裏の御難かな
着服れて山越えの雪口で受く

調布市 高本宏明



異常年その新米を噛みしめり
秋の空宇宙ステーション追いかけり
禍にアマビエ業山子願うかな
エコ展や棚田の新酒お預けに

取手市 杉山行男

散歩道落葉知らしむ移ろう世
綿虫やふつと飛び交う今日に
一茶忌や我も旅行く夢の中
冬の星朧月囲み宴果て
(注)石路の花今が番と競い合い

浜松市 一露



楽くはないか届くりンゴに一筆箋
走り去り逃げるがごとき落日は
百日草今日も健気に咲き続け
庭の霜踏みて棚田に思い馳せ

所沢市 上久保郁夫



棚田ネットスタッフの
つ・ぶ・や・き
(輪番制)

今回のつぶやき人
事務局 畦野花世

SNSである。

■インスタグラムが流行り

他人にプライベートを晒す気は毛頭ない。自負は多少あるけど自慢できるほどのものはない。写真はあまり撮らないし、もともと発信するのが得意じゃない。そんなこんなで、まずインスタはやらない。だけど見るだけは見る。アイドルの追っかけで、「映える」なんてへんな単語が普通に出回るようになって、校正担当としては「？」の思いもあり。

■Twitterは怖くて

「眩暈」なのであまり力入りする必要はないのだけれど、全世界へ発信していることだけは忘れちゃいけない。世間にはいろんな人がいて、匿名をいいことに汚い言葉で非難する人もいる。炎上騒ぎや攻撃的なtweetに追い詰められて命を絶つ人のニュースなどで「Twitterは怖くて」という印象を持っている人も多いらしいけど、似たような人をフォローしフォローされていけば、わりと平和なタイムラインが出来上がる。そしてとにかく情報が早い。なので、私は偏りに気を付けてつつかかりお世話になっている。仲間も出て、オタクにはありがたいツール。

■Facebookは閉じた世界

こちらは実名登録が原則の閉じた世界。だから安心かといえはそうでもない。乗っ取りとかなりすましとか、いすこも同じらしい。隙を作らないためにもリアル交流を土台にしましょう。

■LINE

家族や友達グループで使っている人も多いんじゃないかな。そのせいかどうか、「LINEはSNSではない説」もあるほど身近なコミュニケーション手段。スマホで使うのが普通だと思うが、私はPCも使う。キーボードに慣れた身には、スマホのフリック入力なんてとてもじゃない。

■その他：掲示板とかブログとかEkiとか省略。

パソコン通信から比べるととにかく隔世の感。いつまで付いていけるかなあ。

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

新型コロナ禍での体験作業



今年の体験プログラムは、新型コロナ感染拡大により残念な一年となりました。過疎地域での野外棚田作業まで影響を受けるとはびっくりです。

4月の種蒔きは順調にスタートしたものの、緊急事態宣言で田植えなど一連の体験作業は中止となり、地元農家に全てやっていただきました。稲刈り体験については、地元の皆さんの決断で実施することができ、オーナーさん達は待ちかねたように大勢参加。久しぶりに棚田に活気が戻ってきました。棚田ネットワークの参加者は少なかったですが、地元の皆さんの手伝いもあり、無事完了することが出来ました。

新型コロナの影響で、今後も当分このような状況が続くことが予想されますが、幸い棚田は、3密を避けながら十分楽しめる環境。来年は、工夫をしながら体験プログラムを実施していきたいです。川代では、新しいトイレの設置や地元企業の新人研修の受け入れを検討しているとのこと。私たちはこれからも微力ながら棚田保全活動の一端を担っていきます。（杉山 行男）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

稲刈り



偶然ながら昨年と同じ日、9月28日（月）棚田ビオトープの稲刈りをしました。岐阜県立国際園芸アカデミーの学生を中心に18名が参加、保存会の方も指導に入ってくださいました。例年通り、小さなはさ掛けを作りそこに刈った稲を干しました。岐阜といえども、今回のようにイベントとして小学生の時に課外活動の一環で稲刈りをするのはあっても、それなりに稲刈りができる人は今年、皆無でした。私のように「口で稲刈り」（腰が立たない）をする人を含め、人と「農」の関係が乖離しているのは残念です。ともあれ、七十二節気の「蟹虫坏戸」（むしかくれてとをふさぐ）の秋晴れの中、ヒガンバナの最盛期がちょっと過ぎた頃、清々しい気分で活動できたと思います。

さて、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第14回かえるの卵を探そう！」が3月20日（土祝）の春分の日10時から開催されます。早春の中、ハイキング気分で棚田を散策しながら、ヤマアカガエルの卵塊を探しませんか。（相田 明）

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

稲刈りのお手伝い



10月3・4日、棚田ネットワークの田んぼは、今年休耕中で稲刈りがなかったのですが、オーナー制度の田んぼは見事な実りの季節をむかえました。今年のオーナー田での稲刈りは、やはり出席率が悪く30組くらいのオーナーさんが欠席ということと、高齢の集落の方がコロナ対策で稲刈り指導ができないので、私たちも仲間を引き連れましてお手伝いに行ってきました。

私たちが担当した最上部の棚田は、今年8月に逝去されたやっさんこと高橋靖前会長が先祖から受け継いで長年耕作し続けた場所。今年からオーナー田として初参加の方々を迎え入れました。見事な黄金色と真っ赤な彼岸花、そして青い海。やっさんがいつも見続けた風景を望みながらの甲斐の稲刈りでした。コロナはいまだ落ち着きませんが、なんとか来年は耕作を再開できるよう準備をしておりますので、よろしく願います！（高桑 智雄）

旧暦 棚田 ごよみ

使いづらい、だけど美しい！ 始めてみよう『旧暦生活』

今年もできました！

月の満ち欠けでひと月を知り、太陽の動きで季節の移り変わりを感じていた「旧暦」での暮らし。旧暦棚田ごよみは、四季折々の美しい棚田の風景とともに、暦で「季節感」を味わうことのできる旧暦カレンダーです。

壁掛けタイプ

A4 (縦210×横297mm) ※開くとタテA3サイズ



旧暦がわかる『ミニブック』付いています！

四季折々の棚田風景

二十四節気七十二候雑節を表示

月の満ち欠けイラスト入り！

新暦表示もあり！

注文サイト QRコード



¥1,300 (税込)

5部セット

¥6,000 (税込)

※送料は別途かかります。

5部セットがお得！贈答用にどうぞ！

ご購入は

TEL. 03-5386-4001 もしくは棚田ネットワークHPから

●お電話受付時間 13:00～17:00 ※土日祝をのぞく

※このカレンダーは、旧暦の元日(令和3年は2月12日)から始まりです。

新暦表示は令和3年2月12日(金)から令和4年1月31日(月)までです。



わたしたちと『棚田の応援団』、やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

- 個人会員
 - 維持会員 1口1万円(1口以上)
 - 一般会員 4,000円
 - 応援会員 3,000円
 - 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

- 法人会員(賛助会員)
 - 1口3万円(1口以上)

編集部から

年末になると商店や会社などの社名入りカレンダーをもらうことは、昔より減ってはいますが、まだまだ年末の風物詩です。「棚田ごよみ」も、社名入り注文がくればどんなに助かるだろうと思っただけなのですが、なんといつても社名入りカレンダーは実用ベースが基本。気軽にスケジュールを書き込んだりできてこそ買って嬉しいものなのです。

ところが、今年なんと全く実用性皆無の「棚田ごよみ」に社名入りのオフアアが届きました。環境系の企業の社長さんで長年の愛用者にして、趣味が全国棚田巡り、山梨の棚田でお米作りもするというバリバリの棚田ファンなのだそうです。こういった事例がどんどん増えると嬉しいですね。

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイトも見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>



2021年 冬号 Vol.118

発行 認定NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565